

# 「地域づくり」と「働き方」の新しいカタチ ～東近江市でのチャレンジ～

## 「住民参加のまちづくり」

滋賀県東近江市市民環境部  
森と水政策課  
山口 美知子

# 自己紹介

## 職務外

一般社団法人kikito 事務局員  
NPO法人まちづくりネット東近江 運営委員  
滋賀地方自治研究センター 理事  
マザーレイクフォーラム 運営委員  
びわ湖の森の生き物研究会 監事  
MOH通信執筆者懇談会 委員  
NPO法人カーボンシンク 会員  
「SOYORI」世話人  
関西学院大学大学院 加藤ゼミ生  
滋賀県立大学近江環人 非常勤講師  
滋賀県レイカディア大学 非常勤講師  
英国勅許公共財務会計協会日本支部 会員  
(地方監査会計技能士)  
Team CHAKKA 応援団  
仏教婦人会

## 職務内

市民環境部森と水政策課課長補佐  
(事務局)  
湖東の森林づくり自治体会合 (構成員)  
「低炭素・循環・自然共生」モデルプラン策  
定事業 (共同実施者)  
地域再生計画策定会議 (委員)  
地域福祉プロジェクト委員会 (委員)  
政策推進戦略本部専門部会 (委員)  
環境省循環共生型地域づくりに向けた検討会  
(委員)

- ウッドマイルズ 地元の木を使うこれだけの理由(共著)「第3章 各地の地産地消運動の中で・持続可能な滋賀県への挑戦」(ウッドマイルズ研究会 2007年3月)
- 林業改良普及双書No.164 森林吸収源、カーボン・オフセットへの取り組み(共著)「第4章 <滋賀県> 協議会(kikito)を立ち上げ湖東の森でカーボンオフセット」(小林紀之 編著 2010年2月)
- 地域再生～滋賀の挑戦(共著)「湖東地域材循環システム協議会(kikito)の挑戦」(近江環人地域再生学座 2011年)

# 1. 東近江市の概要

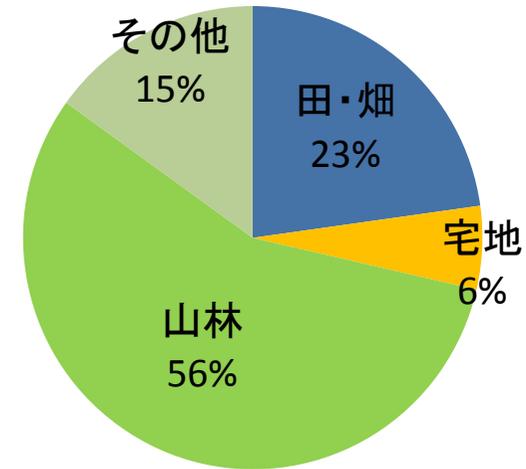
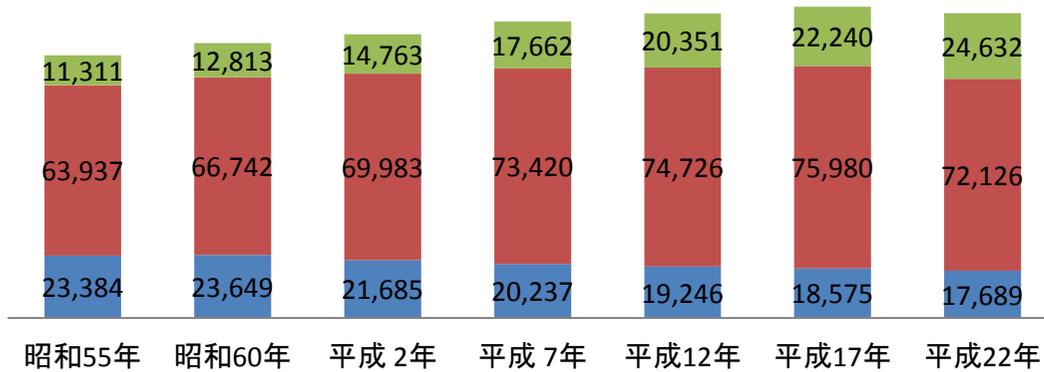
東近江市は里山・里地・里湖がひとつの水系でつながる、  
1,000分の1スケールの日本

人口: 115,961人

平成26年3月1日現在の住民基本台帳人口より

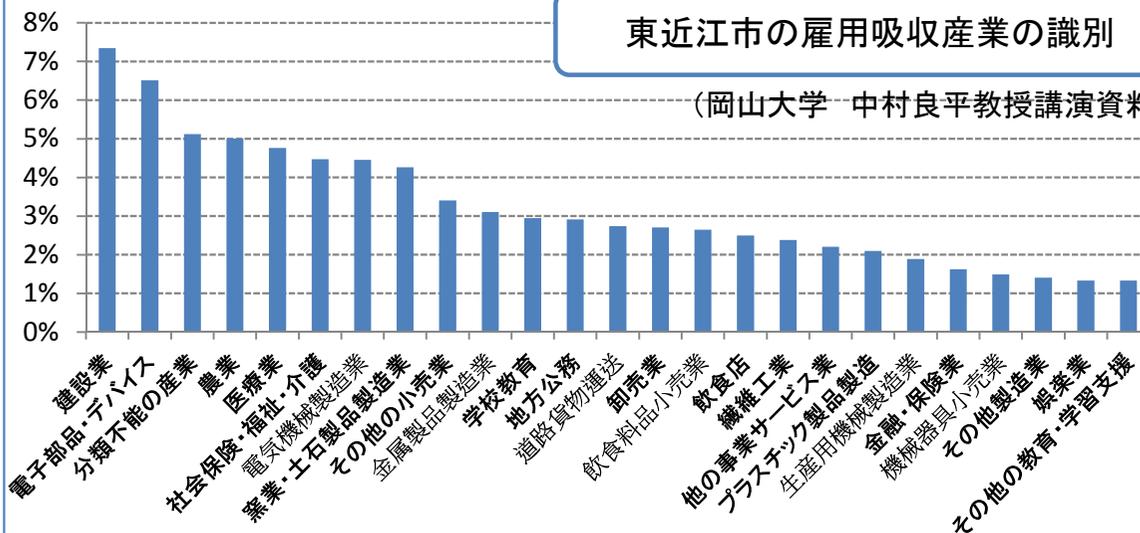
面積: 388.58km<sup>2</sup>

■ 年少 0～14歳 (人)    ■ 生産年齢 15～64歳 (人)    ■ 老年 65歳以上 (人)



## 東近江市の雇用吸収産業の識別

(岡山大学 中村良平教授講演資料)



## 地域の財産 ー歴史・文化ー

- 近江商人経営理念「三方よし」  
企業のCSRの原点
- 縄文時代草創期～現代まで  
遺跡数 514遺跡  
指定文化財 325
- 惣村自治



100畳の大凧(右)と相谷熊原遺跡から出土した日本最古級の土偶(左)



## 地域の財産 —自然—

### ・自然の恵み

再生可能エネルギー：太陽光、バイオマス等

景観：鈴鹿山系～湖東平野～琵琶湖

### ・大地の恵み

森林：211km<sup>2</sup> (56%)

農用地：86km<sup>2</sup> (22%)

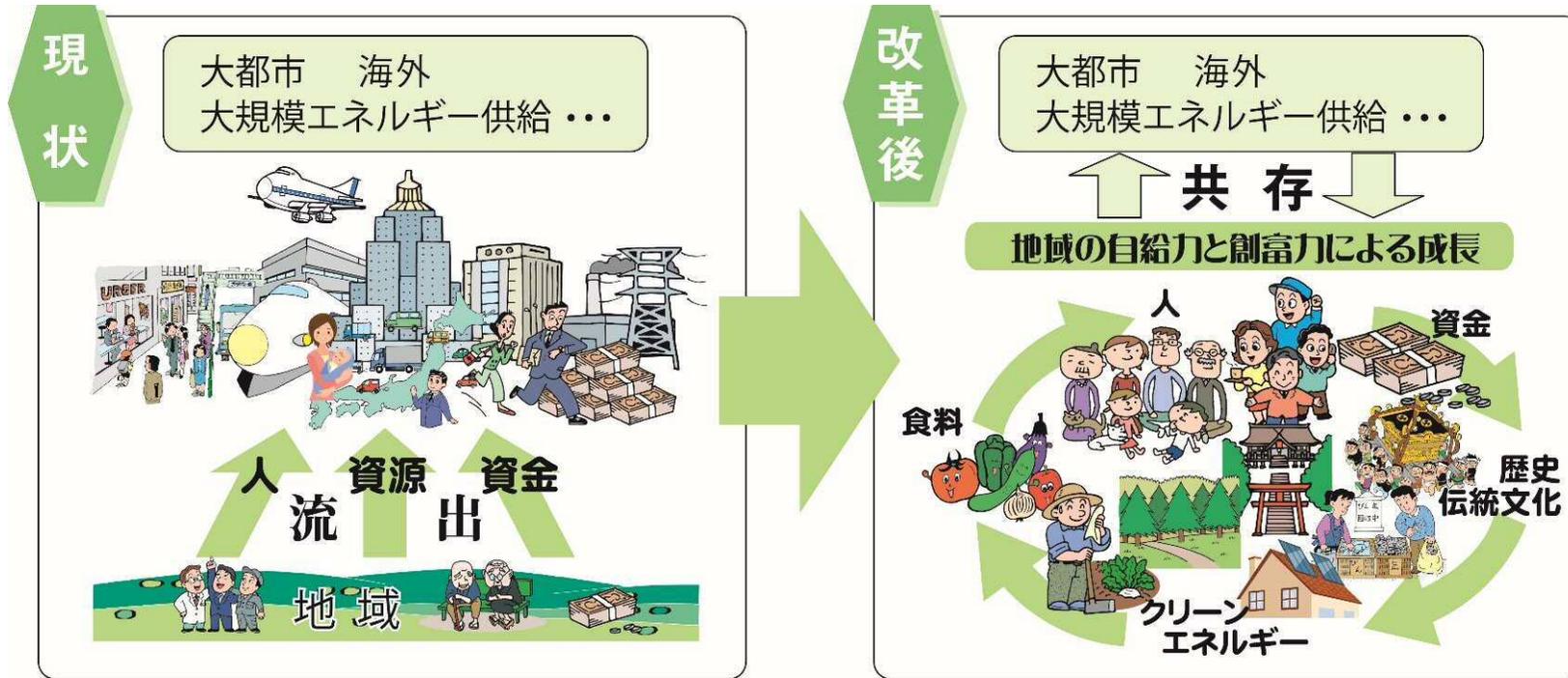


# 1.東近江市の概要

## <参考資料> 東近江市関連年表

2005	H17	1市4町合併し東近江市新設	中村市政
2006	H18	2町編入	
2007	H19	総合計画策定(2007-2016)【企画課】	
2008	H20	JST研究開発プログラム「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」採択【生活環境課】	
2009	H21	東近江市環境円卓会議設置【生活環境課】、緑の分権改革調査事業採択【生活環境課】 希望都市づくり行動計画策定【企画課】	西澤市政
2010	H22	緑の分権改革課設置、魅知普請創寄リスタート	
2011	H23	総合計画基本計画改定【企画課】	
2012	H24	新エネルギー対策室・フードシステム推進室設置	小椋市政
2013	H25	3つの理念 <ul style="list-style-type: none"> <li>・合併してできたまちのスケールメリットを活かし均衡ある発展を目指す。</li> <li>・市民の声を市政に生かす市政運営に努める。</li> <li>・豊かな歴史・文化・伝統を誇るまちの姿を子や孫に伝え若い人が夢を持てる地域にする。</li> </ul> 5つの基本政策 <ul style="list-style-type: none"> <li>○均衡ある発展を目指した地域の活性化と基盤整備の充実</li> <li>○地域医療の充実</li> <li>○農林水産業の保護・育成</li> <li>○教育・子育て支援の充実</li> <li>○安心・安全なまちづくり</li> </ul>	
2014	H26	東近江市協働のまちづくり条例の施行 地域資源を活かした地域完結型のまちづくりを目指す予算編成方針	

# 地域資源を活かした地域完結型のまちづくり



ヒト・モノ・カネが地域で回る仕組みづくりを地域で実現する  
食 (food)・エネルギー・ケア (care) の自給圏を創造する

「2030年東近江市の将来像」からモデルをつくる～実証試験の考え方～

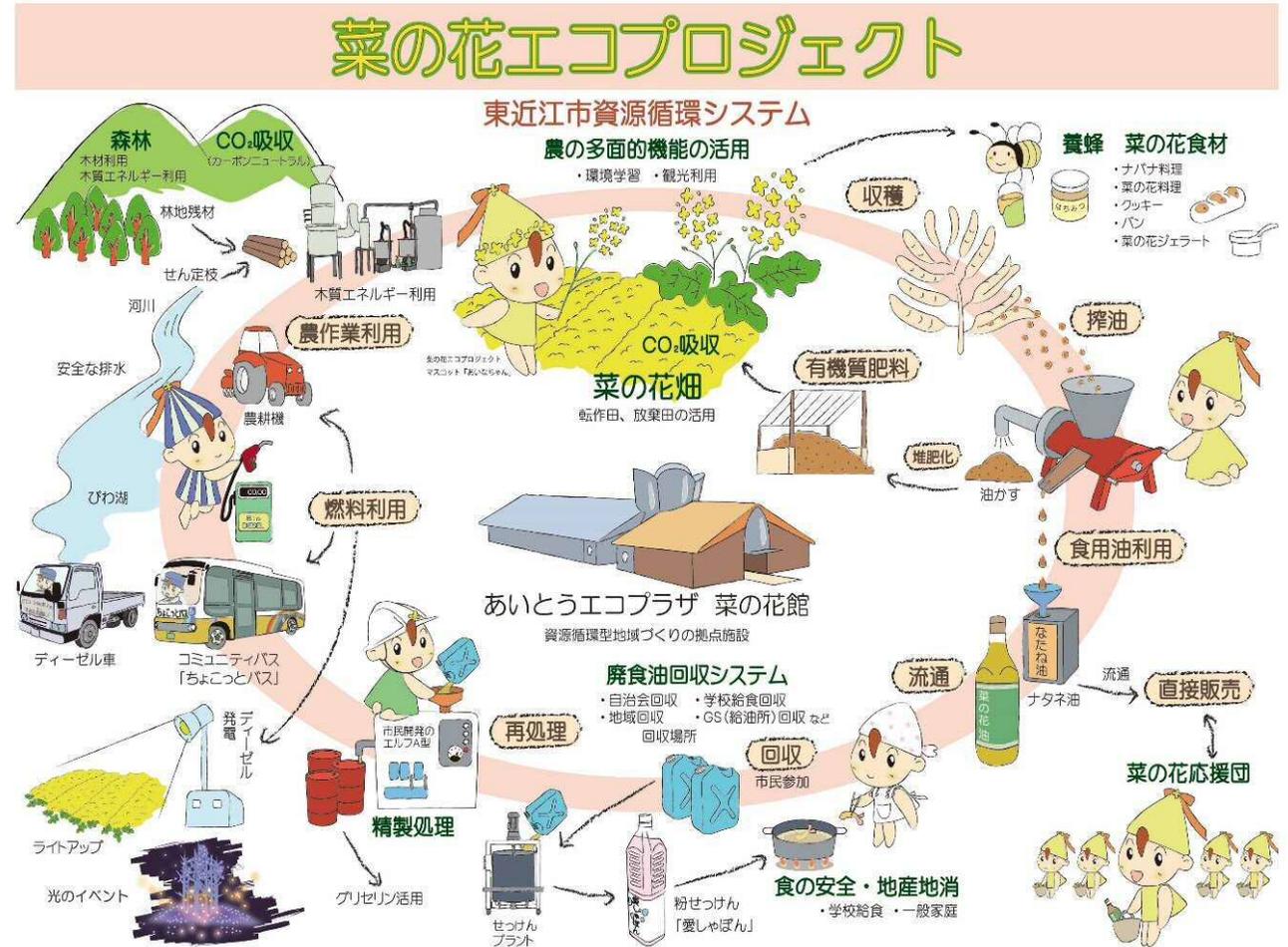
1. ヒト、モノ、カネが効率よく動く仕組みづくり
2. 多分野の連携
3. 専門家の活用 (研究者、プロ)
4. 新たな芽の発掘 (団体、学生、企業 等)

# 2. 東近江市の地域完結型まちづくり

## 菜の花エコプロジェクト

NPO法人愛のまちエコ倶楽部、営農組合等

農家やNPO、市民団体、企業、市等が連携した資源循環の地域モデル。食とエネルギーの自立を目指し、東近江市から全国に広がるプロジェクト。



環境

BDF生産  
農地・森林保全

経済

菜種の6次産業化  
BDF利用(エネルギー自給)

社会

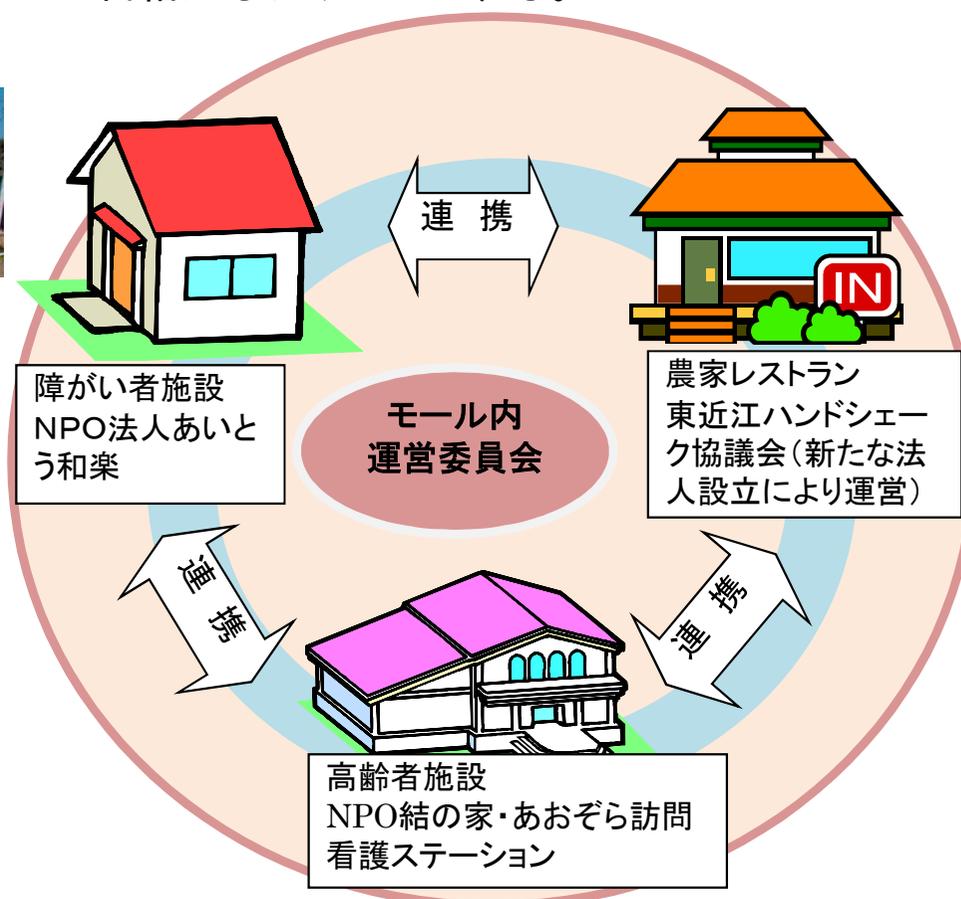
高齢者の生きがい  
新規就農者支援 等

## 2.東近江市の地域完結型まちづくり

# あいとうふくしモール

NPO法人結の家、NPO法人あいとう和楽、(株)あいとうふるさと工房

福祉、環境、まちづくりに関わるNPOや医療関係者、行政、社会福祉協議会などが連携し、傷病・障がい・高齢など、どのような状態でも安心して暮せる地域拠点作りを目指す。障害者が薪生産を担い、市民共同発電所や薪ストーブを活用することで、エネルギーの自給にもチャレンジする。



環境

薪生産  
市民共同発電所

経済

農家レストラン・配食  
福祉サービス提供

社会

高齢者の生きがい  
障害・生活困窮者雇用

# 2.東近江市の地域完結型まちづくり

## 薪プロジェクト

(株)イージェイファクトリー「薪遊庭」、東近江圏域働き・暮らし応援センター“Tekito-”

獣害の原因となっている放置里山の整備を実現するため、伐採・搬出・運搬・薪生産・薪配達を市民協働型で実施する調査を実施。その結果から、集落単位で伐採される里山の資源を、生活困窮者の中間的就労の場として薪生産を行い、民間での事業活動につながる。関係者の薪ストーブ開発にもつながる。



表 市民協働型 皆伐 100㎡当り、薪原木 1t、薪 700kg

作業内容		金額 (円)	割合 (%)	備考
薪原木	現地確認	314	1.0	
	測量	-	0.0	削除
	選木	-	0.0	薪販売者
	下刈・除伐	468	1.5	ボランティアで対応、機械経費のみ
	伐採	4,496	14.4	作業の効率化時間70%
	搬出	11,075	35.4	〃
	運搬	2,284	7.3	片道8km 〃
	測量	-	0.0	
	小計	18,636	59.6	
	薪生産	玉切り	6,118	19.6
薪割		1,415	4.5	2名障がい者で対応
乾燥・保管		333	1.1	
小計		7,866	25.2	
配達	積卸	1,300	4.2	1名障がい者で対応
	輸送	3,422	11.0	700kg 片道23.6km 障がい者1名で対応
	小計	4,722	15.2	
計		31,224	100.0	
収入	販売	35,000		薪原木から販売する薪になるのは7割 1t×70%×50円/kg
	差	3,776		

障がい者の時給1,000円、スタッフ1名は福祉関連

森林・里山



薪生産・販売



薪等雑木活用



雑木活用機器製造

環境

薪生産  
森林保全・農地保全

経済

新たな商品開発  
社会保障費の減

社会

雇用の創出  
中間的就労の場提供

## 2.東近江市の地域完結型まちづくり

# Team CHAKKA

(株)イージェイファクトリー「薪遊庭」、東近江圏域働き・暮らし応援センター“Tekito-”、鍛鉄工房「室」、株式会社農楽、NPO法人愛のまちエコ倶楽部、等々

中間的就労の場づくりに、働き暮らし応援センター、地元企業、コンサル、NPO法人等が協力して取り組む。地域の困りごとの中に役割があり、ビジネスにする。地域の困りごとを請け負う組織として、「Team困救」を立ち上げ。

商品例) 着火剤 (廃燻炭、廃ロウを活用)  
オイルリムーバー (廃食油で作った粉石けんを活用)  
ペレット販売 等々



環境

リサイクル  
バイオマス活用

経済

新たな商品開発  
社会保障費の減

社会

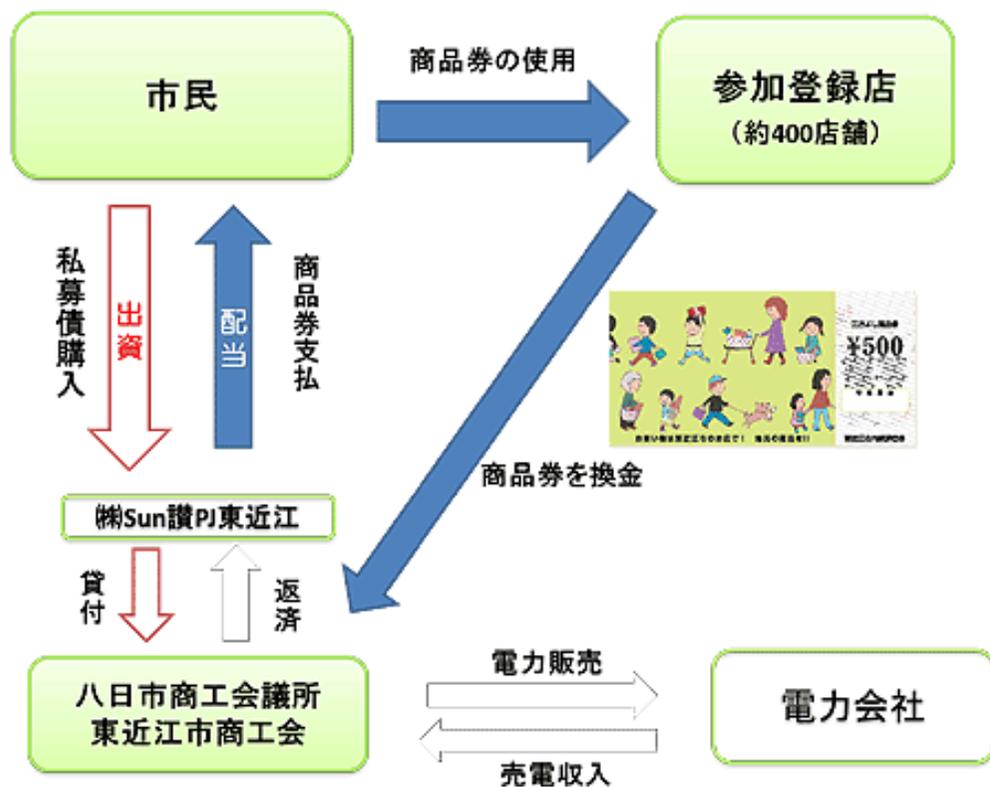
雇用の創出  
中間的就労の場提供

## 2.東近江市の地域完結型まちづくり

# 市民共同発電所

八日市商工会議所、東近江市商工会、＜公共施設、福祉施設、自治会館など＞

太陽光を利用した市民出資の共同発電所を設け、その売電益を地域商品券で還元する仕組み。屋根を持たなくても太陽光発電に参加することができ、「太陽の恵みー三方よし商品券」が地域で利用されることから地域経済循環システムの構築を目指す。



### ひがしおうみ市民共同発電所3号機

設置場所：滋賀県平和祈念館

発電容量：34.8kW

市民出資：合計92口、1,380万円

完成日：平成26年5月

調達方法：私募債方式

環境

再生可能エネルギー

経済

地域経済循環  
個人投資の拡大

社会

地域の絆の再生  
防災意識の向上

# kikitoプロジェクト

一般社団法人kikito、湖東地域材循環システム協議会



kikito  
biwako-no-mori

「木々と」私たちの関係を再構築し、  
忘れられた心を取り戻したい  
そんな思いから、kikitoは誕生しました。



**Mother Lake** を支えているのは、 - **Father Forest** -

母なる湖・びわ湖

父なる森・びわ湖の森

滋賀県の琵琶湖の東側、湖東地域に関わるメンバーが中心となり、  
びわ湖の森を元気にする活動に取り組んでいるのがkikitoです。



滋賀県

湖東地域  
Kotou

2008年5月に設立

会員数：22団体（正団体、賛助団体含む）

森林所有者、森林組合、林業・木工・エネルギー事業体、設計事務所、工務店、  
家づくりグループ、NPO法人、コンサルタント、デザイン事務所、行政



環境

森林保全（間伐材活用）  
グリーン購入促進

経済

新たな商品開発  
還元金の仕組み

社会

雇用の創出  
山村の活性化

# 東近江市フードシステム協議会

市内4つの農業協同組合、ヤンマーアグリノベーション株式会社、愛の田園振興公社、東近江市

市内産農産物の持続可能な生産と流通の仕組みづくりを目的とし設立。加工業務用野菜の生産拡大と販路開拓を行い、経営できる農業法人を育成し、米麦大豆からの脱却を実現することで、耕作放棄地の増加を防ぐ。

**東近江市 HIGASHIOMI FOOD SYSTEM COOPERATION FOOD SYSTEM 協議会**

**キャベツ栽培のとりくみ**

東近江市フードシステム協議会は、東近江市内の4つの（JAグリーン近江・JA近東・JA滋賀厚生部・JA東海豊田）、愛の田園振興公社、ヤンマーアグリノベーションにて設立し、持続可能な農業を推進しています。

収穫キャベツ初出荷  
フードシステム協議会  
キャベツの出荷先も確保

機械化体系によるキャベツ栽培のとりくみ  
平成23年度 実証栽培 平成24年度 キャベツのリレー出荷の開始

キャベツの栽培期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
前作 残存												
新植												
収穫												

**Higashiomi**



環境

農地保全  
流通の縮小

経済

農業所得の増  
社会保障費の減

社会

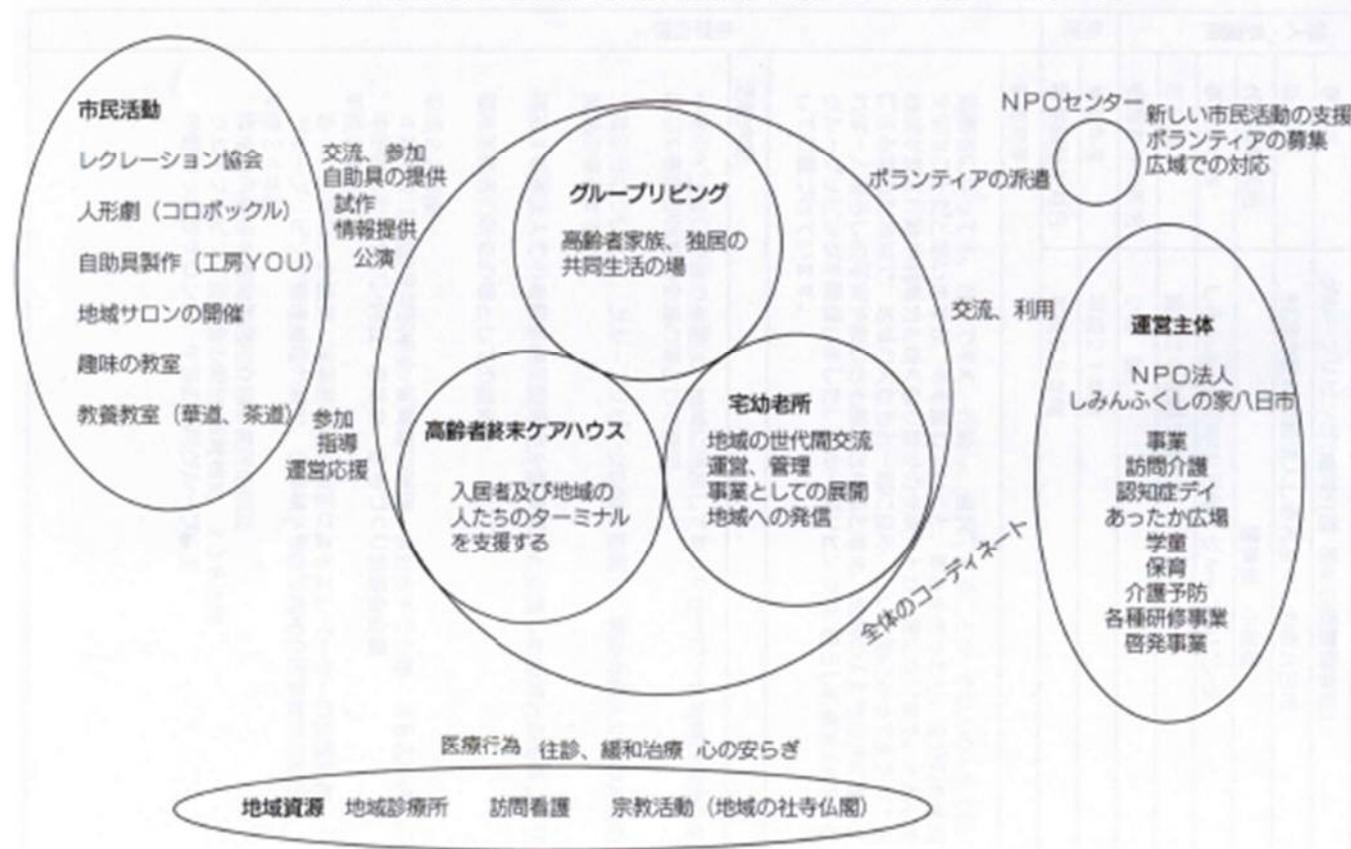
雇用の創出  
中間的就労の場提供

## グループリビング

NPO法人しみんふくしの家八日市

多世帯同居のためのスペース。一人暮らしの不安や寂しさを感じることなく、自分を大切にしながら生活ができる環境を提供する。生活環境の似ている近隣の地域の高齢者による共同生活を可能にした。

高齢者の新しい住み方の提案～馴染みの地域でいつまでも～（イメージ）



環境

多世帯同居  
太陽光発電

経済

福祉サービスの効率化  
社会保障費の減

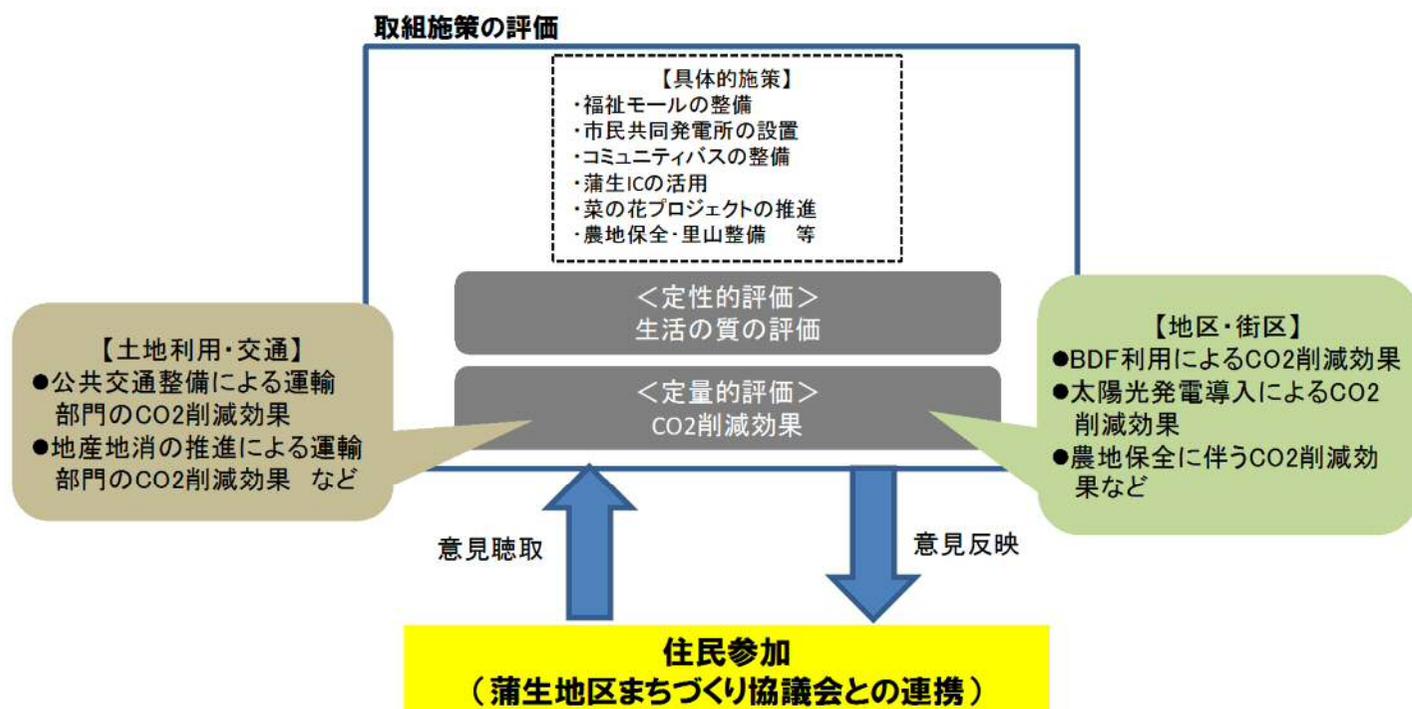
社会

雇用の創出  
高齢者対策、空き家対策

# 蒲生エコまち推進プロジェクト

蒲生エコまち推進協議会(蒲生地区まちづくり協議会)、農楽、博報堂、価値総研、東近江市

蒲生地区まちづくり協議会は、「まちづくり計画」の見直しと併せて、新たに蒲生エコまち推進協議会を立ち上げ、低炭素で持続可能な蒲生地区を実現する“蒲生エコまちプロジェクト”を始動。効果的な二酸化炭素排出量の削減および住民の多様なニーズを反映した都市・地域の低炭素化の推進を目的に、環境省が支援する「住民参加による低炭素都市形成計画策定モデル事業」を活用。



環境

低炭素まちづくり  
省エネ・農林地保全

経済

地域資源の商品開発  
社会保障費の減

社会

雇用の創出  
高齢者対策

### 3.地域完結型まちづくりを実現する地域自治の仕組み

1市6町が合併した東近江市においては、これまでであった自治会の枠組みを超えて地区コミュニティセンターの区域を活動エリアとする新しい地縁型の住民自治組織(まちづくり協議会)が14地区に組織されている。また、志縁型で活動するNPO、地元事業者など多様な主体が連携しまちづくりを行う自治の仕組みを構築している。

#### 行政

- ✓ 東近江市協働のまちづくり条例制定
- ✓ 市民協働推進計画策定
- ✓ 各地区まちづくり協議会の支援
- ✓ コミュニティセンターの指定管理

#### 市民

- ✓ 『SOYORI』の開催
- ✓ 曼荼羅図で取り組みを見える化
- ✓ 多分野連携の取組
- ✓ 各地区まちづくり協議会の運営

※まちづくり計画を策定

- ✓ 中間支援組織立上
- ✓ 協働ラウンドテーブルの仕組み
- ✓ 事業指定寄付制度の創設
- ✓ 市民活動推進交流会「こらぼ村」開催

#### ★これから求められる地域づくりのポイント

1. 多分野連携
2. コーディネーター(仲人)
3. 志金

## 「SOYORI」(創寄り)

- ・各分野の「大ハブ」が呼びかけ人
- ・東近江市に係るキーマン約250名が名簿に
- ・参加の呼びかけは世話人&大ハブから
- ・2010年から交流会スタート(年2回)
- ・毎回100名前後が参加
- ・分野も立場も越えた顔の見える関係

「行政がコントロールできない街に...」

「ただの飲み会、されど飲み会...」

「ネットワーク組織とは何か違う...」

- ①行政にぶら下がらない
- ②プラス思考
- ③手をつなぐ面白さを知っている





# 行政経営と地域経営

	行政組織	地域
「量」	<p>●行政の経営資源 職員・財源・公有財産</p> <p>↓</p> <p>☆管理手法 行政計画策定、進捗管理、評価、見直し、財源確保 等</p> <p>総合計画、行財政マネジメント 等</p>	<p>●地域の経営資源 人口・地域経済・地域資源</p> <p>↓</p> <p>☆管理手法 市民会議による地域ビジョン共有、地域経済分析、地域産業構造の变革、地域資源の発掘、定住促進 等</p> <p>2030年東近江市の将来像 等</p>
「質」	<p>●行政組織の資質 職員力・モチベーション・構想力・組織・組織文化</p> <p>↓</p> <p>☆醸成手法 人材育成、チャレンジ促進、リーダー養成研修、オフサイト 等</p> <p>職員力向上委員会 等</p>	<p>●地域の個性 歴史・文化・伝統・活気・グループ・顔の見える関係性</p> <p>↓</p> <p>☆醸成手法 市民会議による地域ビジョン共有、地域活動支援、多分野交流、暗黙知の見える化、パブリックアクセス推進 等</p> <p>SOYORI、東おうMe!! 等</p>

# Sustainable Human Well-Being